

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：14602

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H03452

研究課題名(和文) 高等学校における不登校と“社会で生きていく力”支援プログラムの開発と追跡調査

研究課題名(英文) School refusal in a high school and development and follow-up survey of a "power to live in the society" support program

研究代表者

伊藤 美奈子 (ITO, Minako)

奈良女子大学・生活環境科学系・教授

研究者番号：20278310

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、高等学校に焦点を当て不登校や中退の現状を明らかにした上で、不登校経験者に必要とされる“社会で生きていく力”に注目し、高等学校における支援の実際と課題について検証を行った。具体的には、不登校経験者が多く通う高等学校をフィールドとし、調査研究や実践研究を行い、不登校経験者が高校を卒業するまでに、その支援ニーズに合わせたさまざまなサポート(教育カリキュラムの工夫や放課後の居場所提供など)が必要であることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、従来の不登校研究からは注目されにくかった高等学校段階の不登校や不登校経験者に注目し、その生徒たちが、入学後も社会で生きていくために不可欠な要素に着目し、実践的な研究を行った点に学術的・実践的意義がある。高等学校における不登校経験者のサポートや、中途退学予防としての教育の在り方についても一つの示唆が得られた点も成果の一つであるといえる。

研究成果の概要(英文)：In a this research, it clarified the school refusal in a high school and present situation of dropping-out at first. Second, we focused on the "ability to live in society" required for students who refused to attend school, and examined the actual and challenges of support in high school. Specifically, it is clear that various support is needed for those who have not attended school before graduating from high school by conducting research and practical research in the high school where many students who have experienced refusal to attend school attend.

研究分野：臨床心理学

キーワード：不登校 高等学校 社会で生きる力 実践研究 高校での支援

1. 研究開始当初の背景

文部科学省の「不登校に関する実態調査 - 平成 18 年度不登校生徒に関する追跡調査報告書 (平成 26 年刊)」によると、平成 5 年度の調査に比べて、支援 (学校の相談員や教育支援センター等) の利用は広がっており、進路の状況も改善された。たとえば、高校進学率は 65% から 85% に上がり、大学等への就学率も 9% から 23% に上昇した。一方、中退率は 38% から 14% に改善している。

この進学状況の改善の背景には、15 歳人口の激減や新しいタイプの高校の出現により、不登校経験者を多く受け入れる高校や入学しやすい高校 (不登校経験者や中途退学者を想定した通信制・定時制高校やサポート校など) が増えたこと等が関与していると考えられ、高校現場においても入学から卒業までを支援する仕組みが、以前よりは整ってきているという現状がある。

しかし、全国平均 (高校進学率: 98%、大学等への就学率: 59%、高校中退率: 2%) に比するとまだまだ不登校経験者の現状は楽観視できない。さらに先の追跡調査によると、中学卒業 5 年後においても、調査対象の多くがさまざまな不安や苦悩を抱えていることが示された。中学校で不登校を経験した生徒の卒業後の進路は大きく改善されたが、一方、高等学校に進学し学校という枠内に留まれる子どもたちが増えることにより、“社会的自立” に向けての課題が高校以降に先送りになったと解することもできる。しかし高校現場においても、いじめや貧困、虐待問題など、子どもを取り巻く環境は厳しさを増している。高校への敷居が低くなった現在、不登校支援においては、高校進学 (“高校につなぐ”) がゴールではなく、“高校を辞めない” “高卒後も社会で生きていく力をつける” という一歩先の支援が必要になっている。そのためにも、学力 (キャリア形成の力) や人間関係、生活面の不安や困難の克服を視野に入れた新たな支援プログラムの開発が不可欠である。これら “社会で生きていく力” は、個別面談等の心理的支援だけでは身につけることが難しく、かつ、義務教育段階の支援だけでは十分でない。中学から高校、そして社会につながる長期的・包括的な支援が必要になるといえる。

2. 研究の目的

“社会で生きていく力” について、本研究では以下の 3 つに注目する。

“学ぶ力”: 学力や自らの進路を選びキャリア形成していく力

“交わる力”: 集団の中で対話し、ともに活動する力

“心身の健康”: どんな環境下でも折れない・あきらめない健全な心と体

これらは、個別臨床の場で行われてきた心理的支援においては十分な解決が難しい側面である。しかし、不登校経験者の 9 割近くが高校に進学する現在の状況においては、高校という “守られた空間” にいる間、社会で生きていくための力を身につける時間が猶予されたと考えられる。

そこで本研究では、高校段階における不登校や中退、転学の現状を把握した上で、さまざまな教育活動が展開しやすい高等学校 (とりわけ不登校経験者の多くが進路として選ぶ新しいタイプの高校) と協力し “学ぶ力” “交わる力” “心身の健康” という 3 つの観点から、不登校経験者に求められる “社会で生きていく力” を育成するプログラムの開発と検証を目的とする。

3．研究の方法

研究1：高等学校における不登校や中退、転学とその支援について現状把握を行うと同時に、不登校に対し“社会的自立”をめざした教育実践を展開している支援機関を見学する。

- ・高等学校における不登校、中途退学の実態についての聴き取り調査
- ・転学生徒の進路および転学先での適応状況についての聴き取り調査
- ・高等学校段階での学内外における支援とその効果についての調査
- ・不登校児童生徒に対し、先進的な取り組みを行っている支援機関対象の調査

研究2：不登校経験者が多く通う高等学校をフィールドとし、生徒が抱く支援ニーズと高校満足度等との関連について調査を行った上で、“社会で生きていくための力”を高めるための支援プログラムの検証を行う。

- ・“学ぶ力”プログラム、“交わる力”プログラム、“心身の健康”プログラムを先行的に取り入れている学校や支援施設（海外を含む）でのフィールド調査
- ・協力校・支援機関との協力により、3つの力を高めるための支援プログラムについての検証を行う。

4．研究成果

不登校経験者が多く通う高等学校をフィールドとし、調査研究や実践研究を行った結果、不登校経験者が高校を卒業するまでに、その支援ニーズに合わせたさまざまなサポートが必要であることが明らかになった。とくに、不登校経験者に対しては、入学前からの継続的なサポート（入学前教育）の必要性が明らかになった。また、高校に入学してくる生徒たちのニーズに合致した教育カリキュラムの工夫（不登校クラスの設置や、基礎基本の復習カリキュラム、アニメやITが学べるコースの設置など）や、放課後の居場所（校内カフェ）による相談活動、保護者を対象とした「親の会」での支援活動などについて聴き取りとアンケート調査を実施し、これらの取り組みについての成果と課題についても論じた。

以上の研究成果については、19本の学術論文と15本の学会発表、そして7本の著書にまとめた。それとともに、不登校に関する著書の一部として企画が進み、現在刊行に向けて作業が行われている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 有島みなみ・大地真穂・黒原麗穂子・白方齋来・三浦実桜・森真菜美・的場恵美・伊藤美奈子	4. 巻 7
2. 論文標題 高等学校における校内カフェの実践報告 - 「居場所」の形成過程 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良女子大学心理臨床研究	6. 最初と最後の頁 77-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤美奈子	4. 巻 9
2. 論文標題 不登校の子どもの気持ち・親の気持ちとその支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都女子大学 心理臨床研究	6. 最初と最後の頁 53-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下文・伊藤美奈子	4. 巻 7
2. 論文標題 スクール・カウンセリングにおける家族療法的関わりの導入	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良女子大学心理臨床研究	6. 最初と最後の頁 67-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子恵美子・伊藤美奈子	4. 巻 35
2. 論文標題 小中学校における不登校経験者の通信制高校卒業後の適応状況	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心理臨床学研究	6. 最初と最後の頁 657-663
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤美奈子	4. 巻 57
2. 論文標題 臨床心理学における研究動向と今後に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育心理学研究年報	6. 最初と最後の頁 98-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下文・伊藤美奈子	4. 巻 5
2. 論文標題 不登校児の母親の語りとその変化 - ナラティブ・セラピーとしての母親面接 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良女子大学心理臨床研究	6. 最初と最後の頁 53-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村恭子・大兼久愛子・松下ひとみ・石井生果・梶本涼子・谷本侑子・樋口綾香・山本真衣・伊藤美奈子	4. 巻 5
2. 論文標題 居場所としての校内カフェにおける実践報告 - 課題解決に向けた取り組み -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良女子大学心理臨床研究	6. 最初と最後の頁 73-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤美奈子	4. 巻 5月号
2. 論文標題 減らない不登校の背景事情	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 月刊プリンシパル	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤美奈子	4. 巻 6月号
2. 論文標題 不登校になりやすい子どもの特徴とは? - 発達・心理面から -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 月間生徒指導	6. 最初と最後の頁 19-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤美奈子	4. 巻 15号
2. 論文標題 学校現場で求められる“自尊感情”と不登校	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 生徒指導学研究	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤美奈子・森下文	4. 巻 16号
2. 論文標題 別室登校の子どもへの関わり	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 子どもの心と学校臨床	6. 最初と最後の頁 64-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤美奈子	4. 巻 65
2. 論文標題 いじめる・いじめられる経験の背景要因に関する基礎的研究 - 自尊感情に着目して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育心理学研究	6. 最初と最後の頁 26-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5926/jjep.65.26	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤美奈子・的場恵美・小林史奈・中岡美玖・池田侑美・大衆万友子・奥田景子・中山愛梨・西園浩実	4. 巻 4号
2. 論文標題 実践報告：高等学校における「居場所」について-COCOROカフェ設立から運営まで-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奈良女子大学心理臨床研究	6. 最初と最後の頁 61-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下文・伊藤美奈子	4. 巻 4号
2. 論文標題 長期不登校支援の試み-描画法と母子並行面接の効果的導入-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奈良女子大学心理臨床研究	6. 最初と最後の頁 49-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子恵美子・伊藤美奈子	4. 巻 10号
2. 論文標題 定時制高校に通う生徒の学校適応と性格特性との関連	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 埼玉純真短期大学研究論文集	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子恵美子・伊藤美奈子	4. 巻 3
2. 論文標題 通信制高校における不登校経験者のその後の適応 - 不登校期間、不登校時の心身の状態に着目して -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 奈良女子大学心理臨床研究	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下文・伊藤美奈子	4. 巻 3
2. 論文標題 不登校支援に描画を取り入れたA子の事例	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 奈良女子大学心理臨床研究	6. 最初と最後の頁 67-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤美奈子	4. 巻 12月号
2. 論文標題 思春期の自尊感情と心の危機	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 月間生徒指導	6. 最初と最後の頁 24-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤美奈子	4. 巻 1014
2. 論文標題 子どもの心に寄り添って、子どもの話を聴ける教師	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松下ひとみ・伊藤美奈子
2. 発表標題 不登校経験者への高等学校における支援について - 高校入学時の気持ちに着目して
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子恵美子・伊藤美奈子
2. 発表標題 通信制高校における不登校経験者の高校生活満足度と卒業後の適応
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森下文・伊藤美奈子
2. 発表標題 不登校児の母親に対する支援過程についての検討
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水野治久・飯田敏晴・永井智・石川信一・肥田乃梨子・藤田博康・本田真大・伊藤美奈子・山本博樹・木村真人
2. 発表標題 カウンセリングに活かす援助要請の視点
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西山久子・迫田裕子・鎌田雅史・伊藤美奈子
2. 発表標題 教育相談の定着化を目指した学校コンサルテーションの検討：校長 のリーダーシップと担当者のアプローチから
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤美奈子（企画・司会）・相馬誠一・金子恵美子・西山久子・小林由美子・新井肇
2. 発表標題 高等学校における不登校への支援と“社会で生きていく力”-義務教育後の不登校支援のあり方-
3. 学会等名 日本教育心理学会第59回総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 南川華奈・田原俊司・伊藤美奈子
2. 発表標題 不登校児童・生徒を対象とした「親子宿泊体験教室」の効果
3. 学会等名 第14回子ども学会議（日本子ども学会学術集会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金子恵美子・伊藤美奈子
2. 発表標題 通信制高校生の学校適応感、自己受容、学校の支援の認知-不登校経験、現在の投稿状況との関連-
3. 学会等名 日本カウンセリング学会第49回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金子恵美子・伊藤美奈子
2. 発表標題 不登校経験者のその後の適応、不登校経験への評価-進路希望の達成状況との関連-
3. 学会等名 日本教育心理学会第58回総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 伊藤美奈子
2. 発表標題 子どもたちの「生きる意欲」といじめ-尺度項目の収集といじめ経験との関連-
3. 学会等名 日本教育心理学会第58回総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 窪田由紀、大野志保、石川雅健、和田浩平、伊藤美奈子
2. 発表標題 学校危機時の養護教諭の役割をめぐって（シンポジウム指定討論）
3. 学会等名 日本学校心理学会第17回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 伊藤美奈子
2. 発表標題 多様化する不登校児童生徒
3. 学会等名 日本学校心理学会第17回大会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 伊藤美奈子
2. 発表標題 いじめの実態把握調査より-からかいとの関連、およびいじめ被害後の感情-
3. 学会等名 日本教育心理学会第57回総会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 伊藤美奈子、相馬誠一、井上千恵美、阪中順子、新井肇
2. 発表標題 今、求められる「いのちの授業」 - 学校現場における展開 - (シンポジウム話題提供)
3. 学会等名 日本教育心理学会第57回総会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 伊藤美奈子
2. 発表標題 いじめの種類別 被害時の感情および自尊感情との関連 - 8つのいじめと6つの感情に注目して -
3. 学会等名 日本カウンセリング学会第48回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 伊藤美奈子
2. 発表標題 いじめられたとき・いじめを見たときの反応と対応 - 自尊感情やいじめ加害経験に注目して -
3. 学会等名 日本心理学会第79回大会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 伊藤美奈子 (徳久治彦編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 160
3. 書名 「新しい時代の生徒指導を展望する」(自己肯定感と生徒指導)	

1. 著者名 伊藤美奈子（水野治久・串崎真志編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 193
3. 書名 「新しい教職教育講座 教職教育編 教育相談」（教育相談とカウンセリング）	

1. 著者名 伊藤美奈子（高坂雅康編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 『ノードとしての青年期』	

1. 著者名 伊藤美奈子（桑原知子編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 -
3. 書名 『教育相談と学校臨床』 「教育相談と学校臨床」	

1. 著者名 伊藤美奈子（春日井敏之・渡邊照美・中村健編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 『新しい教職課程講座 教育相談』 「教育相談とカウンセリング」	

1. 著者名 伊藤美奈子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 21
3. 書名 学びの専門家としての教師	

1. 著者名 伊藤美奈子 (分担執筆)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 202ページ (94-11ページ)
3. 書名 「思春期における不登校支援の理論と実践」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	相馬 誠一 (Seiichi SOMA) (20299861)	東京家政大学・人文学部・教授 (32647)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------